

調査研究部会報告

認知症の方にやさしい文庫づくりレポート

高齢社会における図書館と読書の役割を考える

2023 年度図書館文化セミナー受講生

(構成:山口真也 協力:仲田ひな子)

■プロジェクトが始まった経緯

沖縄国際大学総合文化学部日本文化学科には図書館専門職を養成する資格課程(司書・司書教諭・学校司書モデルカリキュラム)と、卒業研究を行うための県内唯一の専門ゼミが設置されています。そして、資格課程やゼミで学ぶ知識を土台として、実社会との関わりを意識しながら、学内外の機関とつながって、実践的な知を習得することができるよう、アドバンスド科目¹⁾において、様々な実習プロジェクトを展開しています。

2023年9月末からスタートした2023年度後期の授業では、神奈川県川崎市にある「のんびりス等々カ」という高齢者認知症対応型共同生活介護施設(グループホーム)を実習のフィールドとして、入居されている高齢者の皆さまやお見舞いに訪れた家族の皆さまに役立つ資料を揃えた「認知症の方々にやさしい文庫コーナーづくり」という活動を行うことになりました。

今回のプロジェクトに取り組むことになったのは、日本文化学科の卒業生であり、卒業後は「のんびりス等々カ」を運営する社会福祉法人ばなな会の職員として働いている仲田ひな子さんから、「認知症の予防や進行抑制に、図書館

がもつ機能を生かせないか」と相談を受けたことがきっかけでした。そして、仲田さん自身も、学生時代に司書課程受講生向けのアドバンスド科目を積極的に受講し、地元の公民館図書室のリニューアルや、JICA 沖縄にある図書室にて「世界のおはなし会」の企画運営に取り組んだ経験があったことから、個人的に関心を持っていた「高齢者福祉と図書館・読書の役割」について後輩たちと一緒に実践的に研究してみたいと考えるようになったそうです。

こうした仲田さんからのオファーを受けて、2023年初頭から8月にかけて、「図書館文化セミナー」の担当者である山口との数回の調整を重ねてこの授業がスタートすることになりました。なお、仲田さんの学生時代の取り組みは、本誌第22号でも一部取り上げられていますのでぜひご覧ください。

■高齢者福祉と認知症についての学習

2023年9月28日の授業では、Zoomをつかって神奈川県にいる仲田さんに授業に参加していただき、学生たちからの質問に答えてもらう形で、認知症とはどのような症状なのか、今回の実

¹ 2019年度までは「図書館情報学特別演習Ⅰ・Ⅱ」、2022年度以降は「図書館文化セミナー」という科目をアドバンスド科目として設置している。

² 沖縄国際大学司書課程受講生「世界のおはなし会」

にチャレンジしました! JICA 沖縄国際センター図書資料室にて『沖縄県図書館協会誌』第22号, 2019.3, p.85-87

習の舞台となる「グループホーム」とはどのようなものか、そして、文庫づくりに向けての要望・期待することなど、さまざまなお話をお伺いしました。

学生たちの多くは、図書館情報学については日々学んでいますが、高齢者福祉のことや認知症についての専門知識はほぼありません。しかし、「超高齢化社会」を迎えている日本では、「80代の高齢者の2人に1人が認知症になる」という現状をふまえると、今後、認知症の方々にとってどのような資料・サービスを提供すべきか、ということは、図書館専門職を目指す若い学生たちにとって、重要な研究課題になると考えられます。



【神奈川と沖縄をつないでのオンライン講義】

この日の授業では、仲田さんから認知症の症状について、初期・中期・後期に分けて詳しく教えていただき、自分たちがもっていたイメージとの違いを理解したり、「回想法」という薬を使わない治療法が注目されていること、回想法の1つとして、昔の懐かしい風景や著名人の写真集などが記憶を刺激するという面で大いに役立つこと、そこに図書館のはたらきや司書の専門性を発揮できる部分があることなどを学ぶことができました。

³ 草刈明美「回想法を取り入れた思い出語り：図書館資料と郷土資料館資料の活用」『みんなの図書館』528, 2021.4, pp.36-41、天野良枝「子どもにわらべうたを歌うように、お年寄りに回想法を：田原市図書館元気がいたつ便の取り組み」『みんなの図書館』484, 2017.8,

■選書のプレゼンテーション

10月12日の授業では、前々回の仲田さんからのレクチャーをふまえて、「回想法」をキーワードにして、学生たちが3～5人ずつのグループをつかって選んだ図書や玩具類などのアイテムについて、神奈川県にある本社と大学をZoomでつないで、仲田さんと上司である松枝勇治さんにプレゼンをする、という取り組みを行いました。



【神奈川と沖縄をつないでのプレゼンテーション】

選書のプレゼンテーションでは、仲田さんから教えていただいた入居者の皆さまの日々の様子や、図書館での回想法の先行事例を参考に³、以下の7つのジャンルに分けて、グループごとに必要な資料を紹介しました。

- ① 懐かしい街並みや生活風景の写真集
- ② 著名な(懐かしい)タレントの写真集
- ③ 皇室の方々の写真集(特に美智子さま)
- ④ 懐かしい風景のDVD・懐かしい音楽のCD
- ⑤ 難しすぎないクイズの本・簡単なゲーム
- ⑥ 体の運動につながるようなおもちゃ類
- ⑦ 不安を忘れて楽しめる本・前向きな気持ちになれる本

学生たちが選んだ様々な資料に対して、仲田

pp.28-33、原田洋子「図書館を拠点にしたまちづくり：山口市秋穂における古写真による地域回想法の実践に基づく「地域のこし・地域おこし」」『図書館学』100, 2012.3, pp.27-34 など

さん・松枝さんからは、「著名なタレント本の中に長嶋茂雄さんの本が入っているのは良いと思う。野球選手だけでなく、他スポーツ選手も入れてみては？ 力道山選手はちょっと古いので、ジャイアント馬場さんの写真集はないか？」「東京は患者さんたち世代のあこがれの街だったので、東京や銀座の古い町並みのカラー再現写真集はとてもよい。街並みだけでなく、家の中のなつかしい生活道具、ファッションなどの写真集があってもよいと思う」「積み木や立体パズルなどの玩具類は楽しく遊べるものを選んでくれるが、小さい道具は誤飲の可能性があるのでサイズ感に気を付けてほしい」「記憶は視覚以外にも、聴覚から呼び起こされることもあるので、映像資料をもっと増やしてほしい。美空ひばりさんや氷川きよしさんのコンサート映像などはどうか？」といった具体的なアドバイスをいただきました。

この日の授業が終わった後、アドバイスをもとに再度選書を行い、「予算5万円」の範囲内で、オンラインのリサイクルショップなどで入手できる図書や玩具類を購入し、施設へ送付することとしました。ジャンルごとに購入したアイテムをまとめると右表のようになります。

■コーナーの名称・蔵書印・キャラクター・排架レイアウトなどの検討

選書のプレゼンを終えた、10月末～11月中旬の授業では、現地でのコーナーづくりに向けて、親しみをもってもらえるような名称やキャラクター、さらに文庫コーナーに置くブックトラックへの図書や玩具類の資料排架方法などをグループごとに分かれて検討しました。

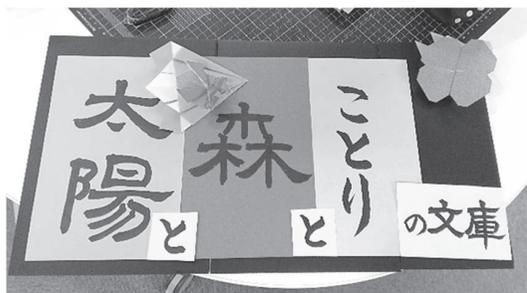
学生たちが考えた文庫の名称は「太陽と森とここの文庫」です。このネーミングには、陽の差し込む森の中で小鳥のさえずりを聞くようなイメージを沖縄の豊かな自然とリンクさせ、豊かな気持ちを思い出してほしいという願が込められています。また「●●と●●と●●」というリズムカルな

【購入した資料のリスト】

タイトルなど	ジャンル	種類	価格
日本全国お雑煮レシピ	①	図書	1240
飛田和緒の郷土汁	①	図書	1300
ファッションインジャパン1945-2020	①	図書	3150
昭和のお菓子	①	図書	1616
昭和の暮らしと道具図鑑	①	図書	2650
懐かしくて素敵！心惹かれる昭和の暮らし	①	図書	1070
大判 カラー写真で蘇る昭和30年代東京	①	図書	1425
缶詰ラベルコレクション MADE IN JAPAN	①	図書	3404
1964年東京オリンピック 全記録	①	図書	
天皇皇后両陛下 ともに歩まれた60年	③	図書	
Kiyoshing 1st-氷川きよし写真集	②	図書	457
石原裕次郎 日本人が最も愛した男	②	図書	2060
永遠のミスター 長嶋茂雄の世界	②	図書	1600
氷川きよしスペシャルコンサート 2005	②	DVD	363
美智子さまの時代	③	図書	993
写真集 昭和天皇	③	図書	258
東京オリンピック・市川崑総監修	④	DVD	1056
昭和あなたが聴きたい永遠の名曲大全集 1946・1963	④	CD	3296
男はつらいよ 第1作	④	DVD	2687
昭和の思い出間違い探し2	⑤	図書	
塗り絵・高齢者向け：大きい・太線・簡単 楽しい TSURU&KAME	⑤	図書	1799
クルリグラフ ビバリー	⑤	文具	1240
だんご屋のひまつぶし	⑤	玩具	1618
ごぼう先生といっしょ！懐かしい音楽でらくらく♪イス体操	⑥	CD	2600
めいろ 5・6・7歳 ひらめき☆天才パズル	⑥	図書	506
3Dデコボコ積み木 (Mamimami Home)	⑥	玩具	2499
学研のパズル 日本列島	⑥	玩具	789
アニマルテトリス (木玩社)	⑥	玩具	2,799
ミツカルタ (JELLY JELLY GAMES)	⑥	玩具	1630
SMILE！動物のかわいい笑顔の写真集	⑦	図書	617
まど・みちお 日本語を味わう名詩入門20	⑦	図書	972
102歳、一人暮らし。哲代おばあちゃんの心も体もさびしくない生き方	⑦	図書	1087
合計 46781円			

言葉の並びもこの文庫名の魅力の一つです。認知症の進行防止には好奇心を持つことが大切であると言われます。ポップ・ステップ・ジャンプ、というリズムで、好奇心を喚起させ、新しい冒険の世界に飛び込んでほしいという期待もこのネ

ーミングには込められています。



【文庫のネーミングとサインパネル】

文庫コーナーに親しみをもってもらうために、この文庫名をもとにしたマスコットキャラクターも作成しました。コーナー名にある「太陽」「森」「ことり」などをイメージできる沖縄のこばを愛称の一部に組み込み、以下のデザインの「ていーだちゃん」(太陽)、「がじゅまる先生」(森)、「トウイトウイ」(小鳥)、「ククルん」(こころ)というキャラクターをイラストが得意な学生が一人ずつ作成しました。また、このキャラクターには、後述するブックトラックの排架法もふまえて、イメージカラーを設定しました。ていーだちゃんは黄色、がじゅまる先生は緑色、トウイトウイは青色、ククルんは赤色をベースにしています。



【文庫に親しみを持ってもらうためのキャラクター】

文庫コーナーに集める資料には、仲田さんからの要望もあって、蔵書印(シール)を装着することになりました。文庫のイメージカラーとブックトラックの色合いをベースに、文字はUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しました。また、文庫コーナーの資料は基本的には施設内で使用してもら

うものですが、入居者の自室や近所の公園などで使用された場合に資料が行方不明にならずに、コーナーに確実に戻ってくるよう、施設名と電話番号も記載するようにしました。こちらもデザインが得意な学生が素敵に仕上げてくださいました。

【蔵書印(シール)のデザイン】

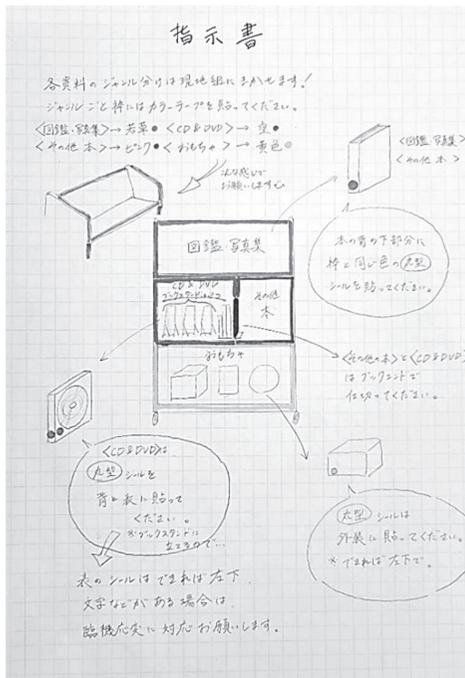


文庫コーナーに置くブックトラックは、施設側の要望により、横幅 1メートル以内のサイズで、稼働式のものを購入しました。この条件に合うブックトラックで、予算(1万円)以内のものは、カラーの選択ができましたが、①コーナー名が「太陽と森とことりの文庫」ということ、また、②事前の仲田さんからのレクチャーの中で、「お家にいるような安心感」を高めることが認知症の進行予防に期待できるということをうかがっていたため、ぬくもりを感じさせる木目調のカラーを選択することにしました。

文庫コーナーでの資料の管理方法については、7つのジャンルを3段のブックトラック上で上手に管理できるように、改めて区分法を見直し、資料の形態・メディア別に「大型本」「CD/DVD」「玩具類」「一般書」の4つのカテゴリに再編成しました。また、手に取った資料を元の棚の場所に戻しやすいように、カテゴリごとに4つの色を設定し、色テープを棚の側面(棚板)に貼り付けました。図書や玩具類には背の目立つ場所に、カテゴリに合わせた色シールを装着することにし、感覚的に資料を戻す場所が分かるように工夫しています。

学生たちが現場での実習用に書いたブック

ラックについての指示書は下図の通りです。



【ブックトラックを使った排架法の指示書】

■現地での実習・文庫コーナーの設置

11月27日、午前9時30分から昼食休憩を挟んで午後2時ごろまでにかけて、山口の引率の下、川崎市中原区にある「のびりーす等々力」を訪問し、文庫コーナーの設置を行いました。

実習開始前には、バナナ園グループの代表取締役・矢野達郎さんから歓迎と励ましの言葉をかけていただきました。また、施設長の栗山玲さんからも、沖縄から面白い本を届けに来てくれることをとても楽しみにしていたこと、認知症に役立つ文庫づくり、という皆さんの研究をぜひ施設としても応援したいといった言葉をかけていただき、今回の取り組みが介護の専門家の方々から大いに期待されていることを改めて実感しました。

この日は受講生(23名)を代表して10名が現地実習に参加し、残りのメンバーはZoomで施設と大学をつないで、文庫づくりの様子を視聴したり、動画を見てアドバイスをしたり、文庫の利用状況を把握するためのアンケートの検討なども

同時に行いました。

実習の中では、コーナーサインやキャラクターをマグネットで貼り付けたプラスチックボードが想像以上に重量があってブックトラックにそのまま取り付けるのが難しかったり、写真集のサイズが大きすぎてサインパネルが隠れてしまったり、とちょっとしたトラブルもありました。また、指示書の通りに一番下の棚におもちゃ類を置くと、ブックトラックの安定感がないことが分かったため、急遽、メンバーで話し合い、一番下の棚には写真集など大型で重量のある資料を、おもちゃ類は一番上の棚に置くことにしました。施設では午後から別の見学もあるとのことで、時間的な制約のある中で作業となりましたが、施設の皆さまにもご助言やサポートをいただき、なんとか午前中には作業を終えることができました。

当日の作業の様子や完成したコーナーは次の写真の通りです。



【試行錯誤しながら作業をする様子】



【施設のスタッフの皆さまとの記念撮影】



【完成した文庫コーナー、正面と側面】

■現地実習に参加した学生たちの感想

現地での実習に参加した学生たちから寄せられた感想をいくつかご紹介します。

☒「ふだんは自分のために本を選んでいますが、今回は誰かのために、さらに、自分とは世代が違う方に高齢者の方に向けて本を選ぶという体験をしたので、難しさを感じつつも、とても新鮮で、司書の仕事の面白さとやりがいも感じることができました。施設の皆さんに効果の検証にも協力していただけたことと、自分たちが選んだ本やおもちゃが実際にどのくらい利用されるのか、とても楽しみです」

☒「最初は、おじいさん、おばあさんのために本を集めて、文庫コーナーをつくるだけでよいのかな?、と思っていたのですが、文庫の効果を検証するという課題もあるとうかがって、自分たちが満足するだけで終わってはいけない、ということ学びました。実習当日も、スタッフの皆さんが日々、試行錯誤しながら認知症の進行予防に真摯に取り組んでおられること、大学生として研究面でも期待されていることを強く感じました」

☒「事前に「グループホーム」についてレクチャーを受けていましたが、実際に行ってみると、入居者の方がとても元気で、家庭的な雰囲気の中で穏やかに暮らしておられる様子が伝わってきました。園芸療法を取り入れたレタスの水耕栽培を入居者の方が楽しみにされていると聞いて、私たちが作った文庫コーナーも日々の楽しみの一つになるといいなと思いました」

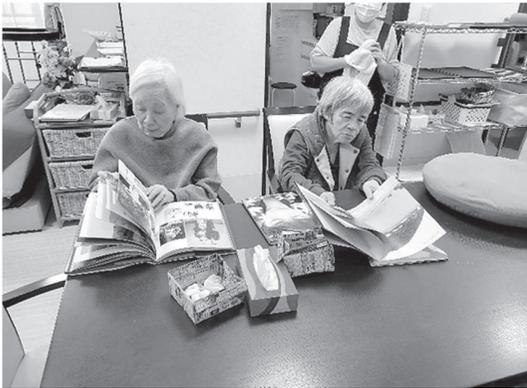
☒「午前中の限られた時間で作業を進めないといけなかったのですが、いろいろと忙しい一日になりましたが、スタッフの皆さまから「ありがとう」という言葉を何度もかけていただき、とても励みになりました。実習の場を作っていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです」

☒「文庫づくりの最中に入居者の方が声をかけてくださる場面が何度かありました。直接声をかけない方も、私たちが集めた本に興味深そうに遠くから眺めてくださる様子を感じられて、とてもうれしかったです」

☒「周囲に認知症の方がいないので、施設を訪問する前はとても緊張していましたが、入居者の方が私たちにやさしく話しかけてくださったり、文庫づくりの様子を見に来てくださったりして、緊張がほぐれました。実習では試行錯誤の連続でしたが、完成してみると素敵に仕上がったのでいまは達成感でいっぱいです。今回の体験を通して、高齢化社会の中で司書として求められる力が、少しですが、身に付いたように思います」

学生たちのレポートにもあるように、資料の仕分けや本棚の組み立てなどの最中には、入居者の方が興味深そうに作業の様子を見ておられたり、近くに来て、「がんばってね」「来てくれてありがとう」といった励ましの声をかけてくださる場面がたびたびありました。

文庫コーナーを作り終わると、さっそく入居者の方々が写真集を手にとって、思い思いに楽しんでおられる様子もみられ、それを見守る学生たちにも自然と優しい笑顔がこぼれました。



【文庫コーナー設置後、施設入居者の様子】

今回の実習に取り組んだ2年生~4年生までの学生たちは、大学に入学した後も、長引くコロナ禍でさまざまな制限・制約を受けながら、窮屈な学生生活を送ってきた世代です。それだけに、今回の実習のような、日々の授業で学んでいる

4 「バナナ園G介護施設 認知症予防に「昭和の本、沖縄国際大の学生が考案——タウンニュース」<https://www.townnews.co.jp/0204/2023/12/08/710234.html>

知識が世の中とつながっていることを実感できる機会はとても貴重なものだったように感じます。このような素晴らしい、心が弾むような学びの場を与えて下さり、仲田さんはじめ、施設のスタッフの皆様、そしてバナナ園グループの皆さまに心からお礼申し上げます。

■おわりに・今後の課題

当日の実習の様子は、神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙である『タウンニュース』に取材していただき、12月8日号の紙面で大きく取り上げていただきました⁴。また、バナナ園グループの社内誌『BANANA NEWS』(Vol.216)には、仲田さんによる実習レポートも掲載していただきました。



【社内誌での文庫づくりのレポート】

「太陽と森とことりの文庫」は、施設のスタッフの皆さまの協力も得ながら、モニタリングとアンケート調査を行い、効果の検証を目的とした成果報告会を2024年1月25日に沖縄国際大学図書館4F ラーニングコモンズにて行う予定となっています。

本レポートは高齢社会における図書館と読書の役割を考えるための第一弾(中間報告)と位置づけ、その効果について今後も検証を行っていきたいと考えています。(2023年12月31日)

www.townnews.co.jp/0204/2023/12/08/710234.html, 2023.12.8 公開

やまぐち しんや:沖縄国際大学
なかだ ひなこ:株式会社アイ・ディ・エス

— 私達は常に貴重史料を後世に「遺す」という
大きな目的を持っています —

古文書・洋書・革製本・古地図・新聞 等

紙は

時代を映し
記録を遺す

貴重な紙資料の修復全般
資料の脱酸性化 貴重書庫の保存環境調査・分析

その紙を

修復するのも
紙である

903-0814
沖縄県那覇市首里崎山町4丁目54-4
TEL/FAX 098-885-0559
E-mail m-hem-y@ams.odn.ne.jp

紙修復保存工房 宮城 誠